

20200227 朝刊 (総合)

ひと

2020

スイスのローザンヌで1月に開かれた第3回冬季ユース五輪アイスホッケー女子の決勝戦で、欧州屈指の強豪スウェーデンを4-1で下した。金メダルの獲得が決まった瞬間、チームメイトと抱き合って喜んだ。「みんなが自分らしいプレーをしてみんなで勝った勝利です」。こう言っ

て胸を張る。

169センチの恵まれた体格とスピードをいかした攻撃が持ち味のFW。ほぼ満員の観客に圧倒され、第1ピリオドで先制を許したが、「勝つ気持ちを前面に押し出してプレーしている」とメンバーを鼓舞し、逆転劇で試合を制した。

苦小牧東高1年の15歳で、父・一也さん(47)は実業団の王子製紙で活躍した元アイスホッケー選手だった。2学年上の兄の影響で、6歳からスティックを握った。「1秒で試合の展開が、がらりと変わるスピード感がアイスホッケーの魅力」と語る。

ユース五輪「金」アイスホッケー女子代表主将

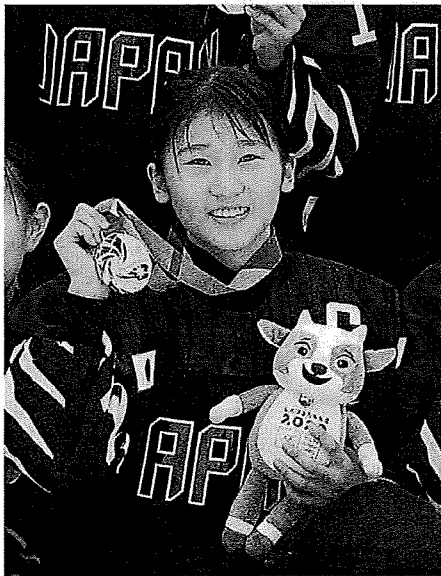
かま だ みなみ
鎌田 美南さん

幼い頃の憧れは、ソチ五輪などでアイスホッケー女子日本代表の主将を務めた苦小牧出身の大沢ちほさん。「一緒にプレーがしたい」と猛練習し、中1から大沢さんが所属した苦小牧市のクラブチーム「道路建設ペリグリン」に加わった。

苦小牧東高の男子アイスホッケー部のマネジャーを務める傍ら、「一緒に練習にも励んでいる。「体格やパワーが上の男子にも負けないプレーができる選手になりたいから」

目標はしっかり力をつけ、日本女子フル代表になること。「2022年の北京冬季オリンピックに出場したい」と次を見据える。苦小牧市在住。

(千葉佳奈)



(O I S提供・共同)